

2024 年度 事業報告

社会福祉法人 晴誉会

1、総論

社会福祉法人晴誉会の掲げる理念のもと、以下の各項目において方針に則った保育・教育活動、施設運営の実現を目的として、下記のとおり事業を実施した。

2、2024 年度の動向

<法人体制>

2024 年度は、2 施設の安定運営を目的とした法人事業活動を行った。

<地域の保育概況>

2024 年度は茨木市北部域（山手台・彩都の地域）においては、待機児童数が就学前の全年齢で減少しており、あまり福祉ニーズは見込まれなかった。

<運営>

茨木市の抱える待機児童を解消するため、両施設ともに 1 号枠を開放した。

<事業>

両園共に継続して両施設ともに緊急一時預り保育（地域子育て支援事業）を実施している。

<人材育成/人材確保>

- ・ チーフ層の育成の充実は、依然として大きな課題である。
- ・ 懸案事項
 - 2024 年度は山手台保育園で 2 名、彩都保育園で 6 名の離職者がでている。
 - 両園ともに、職員のライフステージによる退職・離職が懸案される。

3、施設運営・法人運営

<法人>

- ・ 法人全体の運営状況としては、当初の想定通りの推移となった。
- ・ 経営状況としては、見込みに対してやや減少の推移となったため、マイナスの決算となっている。

<山手台保育園>

- ・ 園舎は建築 45 年を迎えており、基礎部分での老朽化した設備・備品に関しては、今後の計画的な再購入・再整備が必要となっている。
- ・ 地域の保育ニーズとしては、年間を通じて低いニーズとなった。園児数は減少している。
- ・ 配慮を要する児童の割合が非常に高くなっている。
- ・ 保育時間に関しては、前年に継続してフルタイムの利用者が多い結果となった。

<彩都保育園>

- ・ 園舎は建築 19 年を迎え、園舎や基礎部分での老朽化した設備・備品に関しては、今後の計画的な再購入・再整備が必要となっている。
- ・ 地域の保育ニーズとしては、年間を通じて標準的なニーズが感じられた。
- ・ 配慮を要する児童の割合が非常に高くなっている。
- ・ 職員のライフサイクルが結婚・産育休の多い時期に入っている。

4、事業報告

<総論>

当法人においては保育サービスの維持を念頭に、前年と同内容の保育に努めた。

5、その他

特になし。

以上